第20回記念 日本認知症グループホーム大会
「おまかせください！認知症グループホームに！！」
～地域包括ケアシステムで求められる認知症グループホームの役割～

日　時：平成30年9月7日(金曜日)・8日(土曜日)
会　場：栃木県総合文化センター
主　催：公益社団法人 日本認知症グループホーム協会
記載者：坂井 省悟(グループホーム楓)

昨年に続き今年度も全国大会に参加させて頂き、大変多くの学びと知識を得ることができました。本県のグループホーム協議会でご公演頂いた、香川大学の中村祐先生と認知症介護研究・研修東京センターの山口晴保先生の話を再度聞くことができ、さらに認知症についての学びが深まりました。中村祐先生は、BPSDと内服薬の話が主で、山口晴保先生は、アンケートに基づく認知症の研究報告が中心でした。
厚生労働省老健局のこれからの大目標が、「認知症になっても大丈夫な社会にする」そして、「介護人材面の確保」とのことでした。人口の増減に対して、この100年で伸びていた人口が今後100年で減少し明治時代程の人口まで減ることを知りました。そして、2040年までは現在の65歳の方に頑張って貰い、今進めている子育て支援を勧め、出生率2.1まであげることで2040年からは人口の減少と経済を安定させるように考えられているとのことでした。体育の日に行なわれている体力テストの結果で、この15年間を比べても5歳以上は若返っていることや、その他のデーターでもこの25年間で、年齢別の体力が10歳若返っているとのことでした。私の祖父母と現在の両親の外見などを考えてみても実感できる内容でした。そして、これからは中高年の糖尿病予防(メタボ対策)と高齢者のフレイル対策に力を入れるとのことでした。
来年度には、人材面の安定化を図る為に2,000億円以上の予算を考えているとこのとでした。
今後、介護職員の処遇改善や外国人技能実習生などに力をいれ、介護人材の不足と介護職員の定着を考えているようでした。
ランチョンセミナーでは、平成30年介護報酬改正について説明がありました。医療連携体制加算と生活機能向上連携加算について興味深い話があがりました。医療連携体制加算の算定要件等に、それぞれ加算の段階で訪問看護ステーションとの連携、准看護師、看護師の配置基準ありますが、その中に前年度の入居者に喀痰吸引を実施していること、経管栄養や胃瘻等の経腸栄養が行われていることの要件が盛り込まれており、認知症グループホームは穏やかな看取りを考えている施設ばかりなので算定要件があっていないのではという話があがっているとのことでした。生活機能向上連携加算では、同法人内に病院がありセラピストと連携がとれる施設が算定している状態になっているようでした。
ポスターセッションと分科会では、日頃私達の介護を提供している中で抱えている悩みや気持ちを共感できるような内容ばかりでこれからのグループホームを運営していく上での考え方や方向性を考えさせられました。
特に分科会では、社会医療法人耕和会 グループホーム太陽の丘の小八重嘉浩氏の暴力行為≠自己防衛行為という題目で、血糖値と暴力行為の関係性そして、暴力行為は自分の身を守る為の自己防衛行為ではないかと言う学びがありました。私達の介護の現場で、粗暴行為などみられることがあります。認知症が進んでいく上で出来る限り、身体面・精神面双方に落ち着いて頂けるように支援していきたいと考えます。
全国大会に参加させて頂き、直接厚生労働省の方からの話を聞くことができたり、認知症の第一線でご活躍されている先生方々のお話しや現場で働かれている皆さんの気持ちや思いを聞くことが出来る機会を持つことができ、たくさん学ばせていただきました。ありがとうございました。